

Magazine of Teikyo  
Alternative Life

[フレア]  
TAKE FREE

# Floair

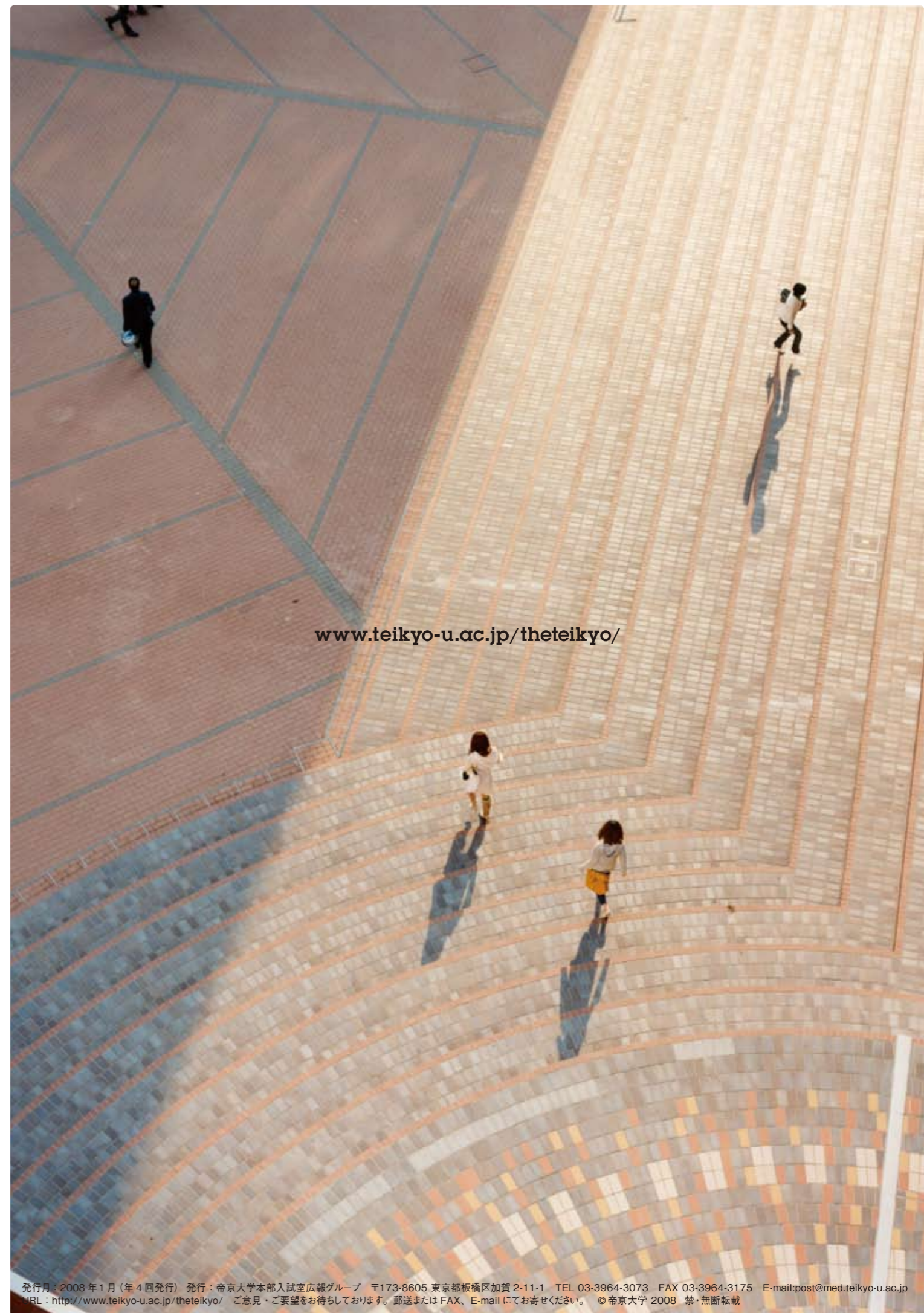
January 2008 / Winter  
Vol.  
**68**  
THE TEIKYO SELF

## CONTENTS

- 10 Good Fellows.  
やっぱり仲間が、一番です
- 12 Good Health.  
やっぱり健康が、一番です
- 13 What's Up?  
いま、何やってる?
- 14 Notice Board.  
大学からのお知らせです

特集

# 言葉を紡ぐ



[www.teikyo-u.ac.jp/theteikyo/](http://www.teikyo-u.ac.jp/theteikyo/)



高橋源一郎

Genichiro Takahashi

作家。1951年広島県尾道市生まれ。1981年『さようなら、ギャングたち』で群像新人長編小説賞優秀賞を受賞して小説家デビュー。著書多数。

Interview

# 高橋源一郎さん、言葉の力について教えてください。

作家・高橋源一郎さんが学生だった頃は、言葉の温度が熱かった。テンションの高い言葉があふれ、そこから刺激とパワーをもらった。言葉がふやけてしまったこの時代。若者たちよ、空気を読まずに言葉を読み!

「僕は大学入学が69年なんです。いわゆる学園紛争が一番華やかだった頃で、ほとんどの大学がストライキ中だった。正式な入学式もなく、バリケードで封鎖された大学へ行ったら、立て看板に大きく『世界革命』とありました。それが大学に入って最初に会った言葉です。」  
その言葉と対面して、体温が上がったという高橋さん。圧力の高い言葉が日常的だった時代なので、ギャップというより「よくやるなあ」と仲間を讃える気持ちになったという。  
「当時は学生運動も盛んで、学生たちがビラを配るわけですが、明日にでも世界革命が起こるかのよう、現実離れた言葉があふれていました。今となつては『KY(空気が読めない)』なんだけど。いま『世界革命』なんて貼ってあったら、頭がおかしいと思われますよね。」  
今の若い人たちの多くは、言葉の温度が低い。空気を読むことが求められる時代だから、高橋さんのようにテンションの高い言葉に慣れている人は、空気を読めない人と言われている。世の中の温度が高ければ、話し手と受け手の境界は溶けてしまいが、温度が低いと言葉は固まって動かないのだ。  
「当時は『空気を入れる』とい

う言葉があったんです。元気がない停滞した状態に空気を入れるという意味で、大きな闘争を組んでみんなにやる気を出せるとかね。昔は空気を読めなくても気にしていなかった。だからパワーがあったんですよ。今は少し読みすぎなんです。」  
「空気」なんていうものは、どこにも書いていない。けれどテレビのワイドショーが誰かをパッシングし始めると、誰もが非難しないとけないような空気が流れる。「誰かが『そんなの関係ねえ!』って空気を入れたら、言葉は動いていくのにな」と高橋さんは言う。  
絵文字がなければ、愛の告白もできません。  
「今の子どもはみんな、携帯メールで顔文字とか(笑)を使うでしょ。絵文字というのはまさに『空気』なんです。だからメールでも空気を読んでいます。相手が怒っているのか笑っているのか、絵文字がなければ読めないから。もしも顔文字禁止法というのができたら、みんなが疑心暗鬼になって、日本の社会は崩壊しちゃうんじゃない?」  
高橋さんの学生時代、テンションの高い言葉が飛び交っていた頃は、顔文字のようなふわふわした『言葉』はありえなかった。それでは時代は動かなかったのだ。「だって変でしょ。『革命やるぞ(笑)』だなんて(笑)」。

# 言葉を紡ぐということ。

「書物は青年時代における道案内であり、大人になってからは娯楽である」

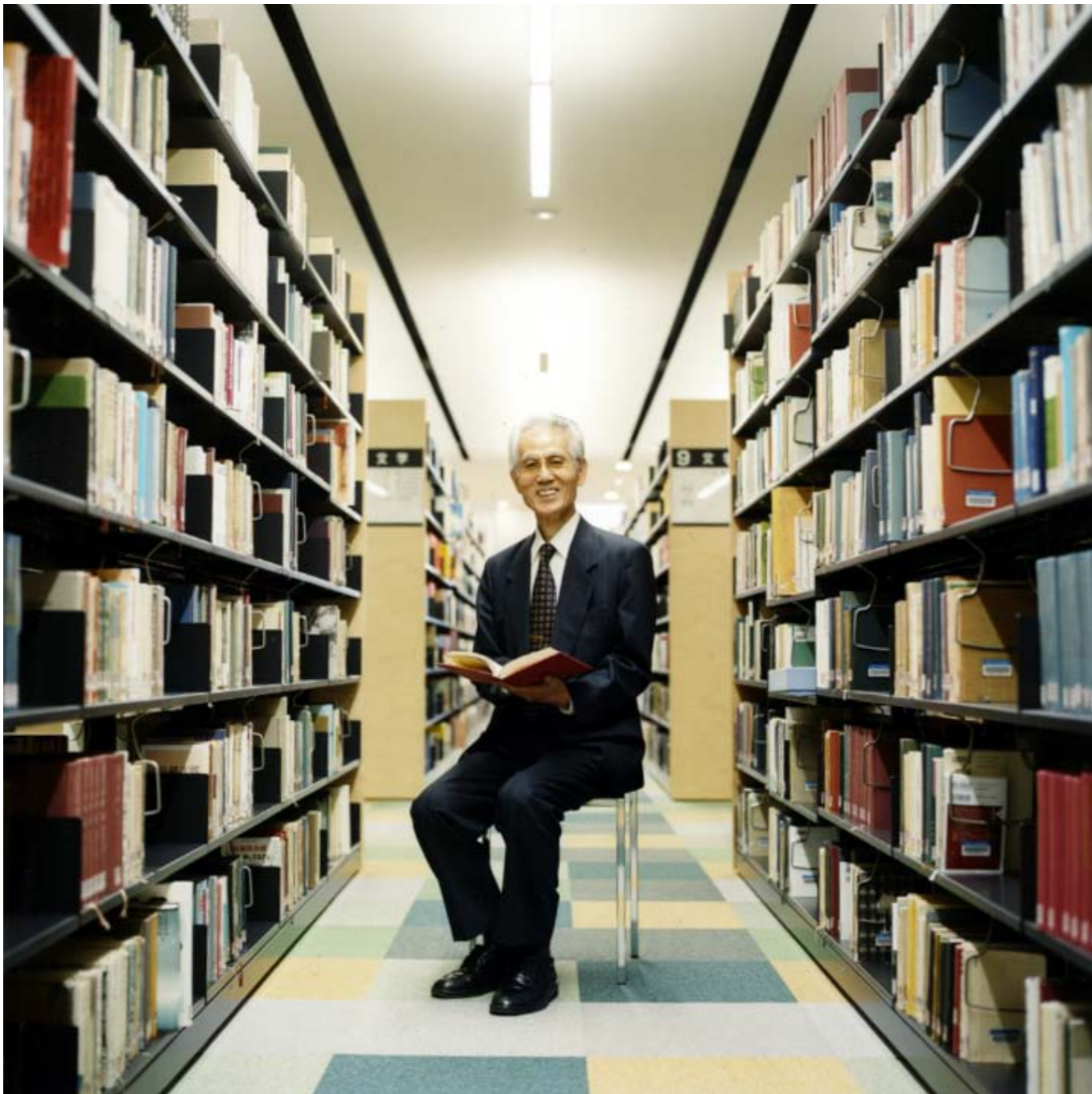
——コリアー(思想家)

辛いときや悲しいとき、あるいは嬉しいときに、普段気にもとめない言葉にハッとしてしまうことはありませんか。そんなときは、書物だけでなく映画や音楽、身近な人の一言などに対して自分なりの意味を見つける力が働くものです。そんなときに会った言葉は、時間が過ぎても忘れることなくあなただけの宝物として残り続けるでしょう。大学時代にいろんな言葉を知り、感じ、考えた分だけ、言葉を楽しめる大人になれるのかもしれない。



特集

# 言葉を紡ぐ



坂梨隆三先生 Ryozo Sakanashi

文学部 日本文学 教授

私の出身地、熊本県には「肥後もっこす」という言葉があります。「正しいと思うことを貫き通す人」という意味ですが、私にもそういう頑固なところがあるかもしれません。

「幼少の頃、父親がよく言っていたのが『冬来たりなば、春速からじ』です。『悪いことはいつまでも続かない』という意味ですが、苦しいときに支えになってくれました」と坂梨先生。今でも時折思い出しては、学生に贈ることもある言葉だ。

一方で、先生が日本語の研究者としての道へ進むきっかけを作ったのはお兄さんだった。「小学生の頃、兄が『走らない、走ります、走る…』と『走』の後ろにつく文字が、らりるれろろになっていくと教えてくれたことから、言葉の規則的な変化に興味を持ち始めたんです」。

では伝達するための「ツール」に関してはどうだろう。近年主流になっているメールに関しての印象を聞くと、「修正も簡単で、相手の邪魔にもならないので私もよく活用します」と意外な答えが返ってきた。

しかし、言葉伝える手段が何であれ、日常生活に欠かせないのは、あいさつ、である、と先生は言う。「言葉そのものに意味はないけれど、最も美しい日本語のひとつだと思います」。

言葉も、伝える手段も、生き物のように変化する。本来の美しさを愛でつつ時代の変化に身を任せるのも、言葉の楽しみ方のひとつなのかもしれない。

### Teacher's Recommendation



金子みすゞ童謡集 「大漁」  
「イワシが獲れて涙ではお祝いをしています、海の底ではお葬式。楽しいものばかり見てしまいがちですが、視点を変えることで別の見方ができる詩です」

坂村真民詩集 「二度とない人生だから」  
「小さく目立たず、弱いものにも愛情を注いでいこうということ詠んだ詩です。坂村真民の詩には、深いところにも仏教の思想が表れています」

父親の言は、私の心にも生き続いています。

Interview with Teachers & Students.

## あなたのコトノハ、教えてください。

勇気をくれた強い言葉や、生き方を変えてくれた素敵な言葉。  
心に響く大切な言葉は、人の数だけ存在します。  
みんなが胸に秘めている、そんな「タカラコトバ」をこっそり教えてもらいました。

### 我以外皆我師也

吉川英治

僕以外はみんな先生。大切にしようと思っています。

この言葉は、守さんが高校を卒業するとき担任の先生が皆に贈ってくれた。「自分以外はみんな師匠だから大切に。そして自分は人に何かを教えてあげられるようになりなさい、と言われたんです」。それ以来彼は、接客のアルバイトの際にもお客様に喜んでもらうことを一番に考えながら動くようにしているという。「ありがとうという言葉がもたらしたときが一番うれしいですね」。先生からののはなむけが、人との接し方を教えてくれたようだ。



守 雄市さん Yuichi Mori

経済学部 経済学科 3年

頭に「まあ」とつけてから話すクセがあります。無意識のうちに、会話に自分なりのリズムをつけているのかもかもしれません。

### I Believe I can fly.

R.Kelly

子どもながらに感動して以来、ずっと好きな言葉です。

アメリカのシンガー R.Kelly のこの曲は、引退したマイケル・ジョーダンが復活するときに来たもの。「バスケットを始めた小学5年生のときに会い、その意味に感動して力がわいてきたんです」と松本さん。当時は英語の意味がわからず両親に聞いたそうだが、今ではすっかり英語のとりこ。日本語にない独特な熟語の面白さに魅了され、英会話の学習に励んでいる。目標は、英語を使う仕事に就くこと。必ず翔べると信じて頑張る毎日だ。



松本大里さん Dairi Matsumoto

文学部 心理学科 1年

伝えたい気持ちが前に行き過ぎて、うまく言葉が出てこないことがあります。頭の中では整理できているのに、不思議ですね。

### 幸運の女神は前髪しかない

西洋のこたわ

おじさんから受け継いだのは、「とにかくやっちゃえ! 精神」です。

高校卒業後、一度就職をした小原さん。進路で悩んでいた時期、知り合いのおじさんにももらったのがこの言葉だ。チャンスの女神が前からやってきたとき、前髪をつかまないと逃してしまうよ、と。「言葉に背中を押され、大学に入学しました。漠然と夢見ていた教師の免許を取得することができそうでうれしい」。春からは、特別支援学校への就職が決まっている。彼女なら夢を叶えても次の目標を見つけ、それに向かってまた努力し始めるだろう。



小原由起さん Yuki Kohara

文学部教育学科初等教育学専攻 初等教育コース 4年

教育実習で小学校に行った時、子どもたちに知らない言葉をどう伝えるか苦労しましたね。

### やらずに後悔より、やって後悔

某ファッション雑誌

やろうと思ったことは、何でもトライしてみようと思いました。

「ファッション雑誌のインタビューページで、この言葉に出会いました」と思い出す田畑さん。淡々と過ぎる日常に疑問を感じていた彼女は心を動かされ、それをきっかけにサークルへ参加したり、学生スタッフに登録したりと行動的になった。結果友達も増え、いろいろなことがプラスにつながったという。「失敗してもそれを繰り返さなければいいから」と笑う彼女。何気なくめくった雑誌の中に落ちていた言葉が、彼女の原点になっている。



田畑久美子さん Kumiko Tabata

文学部 教育学科教育学専攻 2年

友達だからこそ言えること、というのもあると思います。思ったことを素直に口に出せる関係が理想ですね。

### 行動しなけりゃ始まらない

高校時代の恩師

今の自分を導いてくれた大切なフレーズです。

例えば野球で100本ホームランを打とうと思っても、打席に立たないと始まらない。「それで1本しか打てなかったとしても、徐々に積み重ねていけばいい。とにかく一度やってみろ、と恩師に教えられました」と本郷先生。その言葉に導かれ、今はスポーツトレーナーの仕事に就きながら教壇に立っている。今度は学生に自分の言葉を残す番だ。「経験から得たものは全部伝えたい。各々が感じたことを、自分のものにしてくれたらと思います」。



本郷仁吾先生 Jingo Hongo

医療技術学部スポーツ医療学科准教授

選手の負傷時は、リラックスさせるべきか、一緒に笑うべきか、言い方を含めてかける言葉にも気を遣います。

### NO MUSIC, NO LIFE

Tower Record

私にとって音楽は元気の源。幼い頃からいつも救われています。

「この言葉をCMで初めて聞いたとき、自分のことだ! って思ったんです」と語るのは、中学～大学まで10年間吹奏楽部に所属していたという酒寄さん。彼女は聴く・歌う・演奏することのすべてが大好きで、小さい頃から周りには常に音楽があったという。かつての担当楽器はフルート。演奏する機会がなくなった今でも、朝起きてから寝るまで変わらずそばに音楽がある。自分を表す言葉との出会いは、偶然訪れるものなのかもしれない。



酒寄美和さん Miwa Sakayori

八王子キャンパス教務グループ職員

人と話すときは、なるべく丁寧に話すよう心がけています。正しい日本語って、意外と難しいんですよ。

「正直言ってNYは初めてなんだ。  
昔からこの街に憧れていた」  
ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ  
(ウィム・ヴェンダース監督)

キューバ音楽の巨星たちを追った  
ドキュメンタリー。老ミュージシャン  
の含蓄のある言葉に納得。

「幾時代かがありまして  
茶色い戦争がありました」  
中原中也詩集  
(中原中也著 / 新潮文庫刊) P17より抜粋

さまざまなモノへの惜別の想いを  
歌い続けた天才詩人の詩編。甘く  
はかない言葉が胸に染みる。

「あきらめたら、  
そこで試合終了ですよ…」  
SLUM DUNK  
(井上雅彦 / 集英社刊) 27巻より抜粋

主人公桜木が高校を舞台にバス  
ケットマン、そしてひとりの人間とし  
て成長していく青春マンガの傑作。

「君が愛してくれなくても、  
僕はずっと君を愛し続ける」  
ラブ・アクチュアリー  
(リチャード・カーティス / 竹書房刊)  
P224より抜粋

19人が冬のロンドンで織りなす愛  
の物語。それぞれの物語ごとに印  
象的な言葉が散りばめられている。

「人生はチョコレートボックス。  
食べてみないと中身は分からない」  
フォレスト・ガンブ  
(ウィンストン・グルーム原作 / 東宝)  
映画パンフレット4Pより抜粋

どこまでも純粋な主人公フォレス  
ト・ガンブの半生を、時代を象徴  
する事件とともに綴る物語。

「ドブネズミみたいに、  
美しくなりたい」  
THE BLUE HEARTS  
(THE BLUE HEARTS / maldac)  
JASRAC 出0717718-701

青春時代の劣等感をテーマに、熱  
いパンクロックが炸裂する。飾り  
気のない言葉が胸を打つ。

## 言葉を読む・言葉を聴く

Search for "Your Word"

誰かと話すことは楽しい。誰かとメールすることは楽しい。  
自分の言葉を使っのコミュニケーションだから楽しい。  
その言葉と同じように素晴らしい言葉たちが、  
昔の文学や映画や音楽にもあるんです。もしかしたら  
そこに登場する言葉が、あなたの新しい言葉になるかもしれない……。  
ここでは珠玉の言葉が散りばめられた作品の数々を紹介します。

「毎日を情熱の日々に変えたい  
という願いによって」  
チェ・ゲバラ わが人生  
(ビクトル・カウサス編 / 原書房)  
P255より抜粋

革命家であり、数々の印象的な言  
葉の残したチェ・ゲバラの生涯を  
自筆文章で綴るドキュメンタリー。

「人生の目的は、  
幸せになることです。」  
抱くことば  
(タライ・ラマ 14 世 / イーストプレス刊)  
P17より抜粋

15 歳でチベットの最高指導者とな  
り、ノーベル平和賞を受賞したタライ  
・ラマ 14 世の言葉はどこまでも深い。

「どこどん好きにやってみよう。  
俺には "自由" があるんだ」  
My Freedom! 1~6  
(田中憲太郎 / cycleman books)  
P00より抜粋

フォト・エディター・田中憲太郎が  
収集した古着の数々を紹介。自由  
を愛する著者の熱い言葉が響く。

「満ち足りた日々の思い出こそ、  
君からの最高の贈り物だったんだ」  
てんとう虫コミックスアニメ版  
のび太の結婚前夜  
(藤子・F・不二雄 / 小学館刊) P97より抜粋

不朽の名作「ドラえもん」には、ビュ  
アな感動を呼ぶ言葉が数多い。中  
でもこの作品は人気が高い。

「ねこは もう、けって  
生きがえりませんでした」  
100万回生きたねこ  
(佐野洋子 / 講談社刊) P30より抜粋

何回死んでも生き返る不思議なね  
この物語。最後の場面では、生き  
ることの大切さが胸に染みる。

「波を求めて、  
4日もかけて何千キロも走る」  
エンドレスサマー リビジテッド  
(ブルース・ブラウン)

「永遠に夏を追いかけたい」というサー  
ファーの永遠の夢を体現した名作ド  
キュメンタリーには数多くの名言が。

「俺に正当な分け前をくれよ。  
俺にふさわしい報酬をくれよ」  
JOURNALS  
(カート・コバーン / rockin'on刊)  
120Pより抜粋

ロックバンド「ニルヴァーナ」の  
ボーカリストとして、時代の代弁者  
だった彼の魂の軌跡。

「せいかいはひとつになれない。  
そのままだこかへいこう」  
ばらばら  
(星野源・平野太呂 / リトルモア刊)  
P6より抜粋

人気ロックバンド「サケロック」星  
野源の言葉が、写真家平野太呂の  
せつない写真に溶けてゆく。



What is "Mobile Mail" ?

## 携帯メールが、新しい言葉のカタチを作ります。

いまや私たちの生活に欠かせないツールのひとつになった携帯電話。中でも携帯メールの存在は、事務的な内容を伝達したいときから、自分の気持ちをそっと伝えたいときまで、誰かと自分を気軽につないでくれるコミュニケーションの手段として、本当に多くの人々に受け入れられてきました。人と人とのコミュニケーションや言葉のあり方そのものに新たな形を生みだす、携帯メールの可能性に迫ります。

自分が信じた道を、  
自分が思う通りに  
進んでいけば  
いいと思うよ。

携帯メールは自由で新しい  
コミュニケーション手段

帝京大学文学部社会学科准教授の丹野清和先生は、携帯メールは「話し言葉」と「書き言葉」の中間的な位置にあると分析する。「話し言葉によるコミュニケーションには、言葉の他に声の大きさや抑揚などが含まれるため、書き言葉よりも多くの情報を得られます。生のコミュニケーションなら、表情や身振り手振りなどが加わりさらに多くの情報を得ることが出来ます。一方、書き言葉によるコミュニケーションでは言葉そのものには文字としての要素しか含まれないのですが、表現が練り上げられ、事務的な内容を伝える手段としても確実性が高い。これが携帯メールの場合、フォントや文字色などを工夫することで、場合によっては話し言葉よりも強い印象を持たせることができます。従って、絵文字やデコメ、写メールなどを使って臨場感を出し、メールに生身の世界が入り込めば携帯

メールは、話し言葉に近く、事務的な内容を正確に伝える手段として使えば、書き言葉に近くなる。携帯メールは、話し言葉の気楽さと

書き言葉の事務的な要素を両方含み、話し言葉と書き言葉をお互いに補完しあっているように思います。

という先生の言葉通り、携帯メールというのは、様々な制限があるからこそ生まれた、ある意味で非常に自由で新しいコミュニケーションのあり方といえるだろう。

今回学生にご協力いただいた携帯メールについてのアンケートでは、「合格おめでとう」「誕生日おめでとう」などの、日常生活の中での記念日や、幸せな瞬間に届くお祝いメールが最も印象に残ったという回答が圧倒的に多かった。意外だが、長い文章を書きつらなメールよりも、日々のふとした瞬間に届く短いセンテンスのメールの方がずっと心に残るということだ。つまり、多くの学生にとって、携帯メールは文面そのものよりも送られるタイミングの方が重要であり、意思伝達のタイミング次第で、相手の心に深く響く印象的なコミュニケーションの手段となり得るといふことだ。

電話をかけるまでもないような些細な事、面と向かつては言いつらいような事だけれど、気持ちはきちんと伝えたい。送る側は、そういう時に電話でも手紙でもなく、携帯メールを選択する。そしてメールを受け取った側は、その内容よりも、誰かが自分の存在をきちんと覚えて

このまま、  
ずっとずっと  
友達でいられたら  
いいよね。

いてくれているという事実に深い喜びを感じる。凝縮された短い言葉のやりとりで、送る側、送られる側、それぞれの想いがつまっている。さらにそこに、押し付けがましさが無いということ。それが携帯メールの最も優れた特徴かもしれない。

誰もが、他の誰かと想いを分かち合いたいと思っている。でも、その気持ちはなかなかうまく表現できないもの。そんな時は、携帯メールで気持ちを伝えてみるのもいいかもしれない。

デジタルテクノロジーの急速な進化に、コミュニケーションが希薄になったと否定的な見解を持つ人も多いが、それは見当違い。携帯メールは、使い方によっては今までよりさらに温かく優しいコミュニケーションを育む可能性を秘めている。

アナログからデジタルへと手続が変わったとしても、結局のところ「ツール」は使い方が第一といえよう。

いつもありがとう。  
さりげないメールに  
たくさん元気  
もらってるよ。

(左ページ写真) 学生が思い思いのスタイルで過ごすラウンジでは、本当に多くの学生が携帯を使ってメールをしています。休講のお知らせから、大切な人からのメールまで、携帯が誰かと誰かの言葉を繋いでいます。



帝京大学駅伝競走部

Teikyo Univ. EKIDEN Race Club

今回話をしてくれたのは、田部貴之さん、小田鎌徳さん、大脇佑介さんの4年生3人。卒業後に進む道はバラバラでも、共通するのは「走り続けたい」という想い。彼らにとって箱根は、この4年間の集大成となったはずだ。

自身が強くなるという意志を持っている。ライバル同士でもある。それだけに、栄養管理や普段の練習も自己管理が基本。一人ひとりが自分の役割を果たすために必要なことを自らの意志で実行していく。すべては、自分が少しでも速くなりたいという思いと、大学の名前の入ったたすきを繋いでいくという責任感の上に成り立っている。

自由なようであり、チームとしての団結力も試される、駅伝という競技の難しさ。しかし、選手にその魅力を尋ねてみれば、返ってくるのはなんとも清々しい答えだった。

「駅伝は、自分の走りでもチームに貢献していく楽しさがある。もちろんプレッシャーはあるけど、それをいかに面白く感じるかが大切。そこには、苦しみなから頑張ってきたことが結果としてちゃんと現れるという達成感もあります。」(小田鎌徳さん)

この号が出るころにはもう、箱根駅伝の結果は出ている。彼らは「成し遂げる喜び」を感じることができたのだろうか。

今回の箱根は、大学最終年にチャンスを掴んだ4年生にとっては特に、思い入れの強いもの。一つでも上を狙いたい、そんな思いは、当然、ある。

「一区間20キロ前後の距離を一人で戦う箱根。走っているときは孤独です。でも、中継所で待っている選手のために、たすきを繋ぎたい。」(田部貴之さん)

彼らにとって一番大切なのは「いかに自分の走りができるか」。そして「いかにそれをチームとしての結果に繋げられるか」なのだ。

一方で、彼らはみんな、「自分

# HACHIOJI CAMPUS EKIDEN RACE

2008年、3年ぶりに箱根駅伝への出場を果たした帝京大学駅伝競走部。ここまでするには、毎日のハードな練習はもちろん、「仲間を信じて待つ」という目には見えないチームワークも要求された。この大舞台を経験したことで選手たちはきっとひと回り成長し、また新たなスタート地点に立つことができるだろう。



餃子とシュークリーム。一見不釣り合いに見える双方の業界で、トップに登りつめた人がいる。餃子の「芦屋さん」・シュークリームの「芦屋タカトラ」を一代で築き上げた杉本昌秀さんだ。彼はかつて、中学から社会人にかけて仲間とボールを追い続けたラグーマンだった。帝京大学での自分をこう振り返る。

「学生生活を満喫しよう」という空気ではなかった。関東対抗戦で勝利するため、プライベートはラグビーにおいていました。それでも毎週末に試合のあるラグビーより、圧倒的にチャンスが少ない、半年に一度の期末試験の緊張感を楽しんではいましたね」。

大学卒業後は、アパレルメーカーに就職。ラグビーを続けながら仕事をこなした。順風満帆。そんなある日、彼はあるものに心を奪われた。

「先輩に連れて行ってもらった餃子屋で、その味に惚れて。レシビを覚えてもらおうとしたけど、すぐには無理でした」。

諦めきれず、熱心に店に通い続けた。そんなある日「お前、会社辞める気あるか？」という大将の言葉に首をタテに振り、辞表を提出。カウン

ター6席の餃子屋を開き、しばらくは毎日大将の店に具材を仕入れに行った。ようやくレシビを覚えてもらったのは、開店から一年が経った頃。「会社を辞めること勇気がいる、っていう等式がなくなってきた。こういうのを怖いモノ知らずっていうんでしょうね」。

さらに餃子が軌道に乗り始めた頃、甘さ控えめで上品な味のシュークリームに魅了された。「思い立ったらすぐ行動」がモットーの彼は、パティシエに自分の餃子の味を確かめてもらうことでレシビの享受に成功した。その決断力とバイタリテイの根源は一体何だったのか。

「自分が経験していないことを商売にしようっていう人は少ないでしょ。無謀じゃないですか。でもだからこそやり遂げてやろうと思えたんです」。

全ての点数が70点であるよりは、10点20点のところがあったりも200点の部分を作ればレギュラーになれる、と彼は言う。ウィークポイントを見極め、それをカバーするため元々自信のあった自分の味覺にすべてをかけてきた。ラグビーから得た教訓が、その成功にも息づいている。

INTERVIEW  
芦屋さん株式会社 代表取締役

# 杉本昌秀さん

短所があるなら、長所でカバーすればいい。  
成功への道は、ラグビーが教えてくれた。



Masahide Sugimoto

帝京大学法学部法律学科89年卒。中学からラグビーを始め、大阪工業大学高校時代に全国優勝を経験。帝京大学では主将を務める。89年ワールドに入社。98年に退社し、99年に餃子専門店の名前と同じ「芦屋さん株式会社」を創業。



## QUESTION インフルエンザって、どのくらい怖いんですか？

冬になると毎年気になるのが、インフルエンザの流行。でも、ただ戦々恐々としていても仕方がないから、この機会にその予防策と対処法をしっかりと身につけておきましょう。先生に、インフルエンザの基本を教えてくださいました。

### ANSWER

**充分睡眠をとってあげれば、それほど怖がる必要はありません。**

インフルエンザに特徴的な症状は？

Dr. 寒気、震え、全身の関節痛・高熱。また、これらの症状が、今まで元気だった人に突然出るのも特徴です。インフルエンザから肺炎になる可能性はありますが、原則的には、それ自体で命をおとすような病気ではありません。

感染者が増えるのはやはり冬ですか？

Dr. インフルエンザが冬によく流行するのは、そのウイルスが、乾燥している空気中で広がりやすく、低温に強いため。だから「熱は悪いもの」という考えで解熱剤を使わずと、逆にウイルスが増えすぎてしまいます。もちろん、苦

しくて食事もできないくらいなら使ってもいいのですが…。

どうしたら予防できますか？

Dr. まずは常に抵抗力を保つこと。睡眠を充分とりましょう。インフルエンザの感染経路は口から飛ぶ睡なので、マスクの装着と手洗い・うがいが大切です。飛沫は粒子が少し大きいので市販のマスクで対応できます。基本的な予防法は風邪と同じなんです。

もし感染してしまったらどうすればいい？

Dr. とにかく、休むこと！学校法では、発症して4〜5日で治まってもウイルスはまだ残っていることから、解熱後2日間の自宅療養が定めら

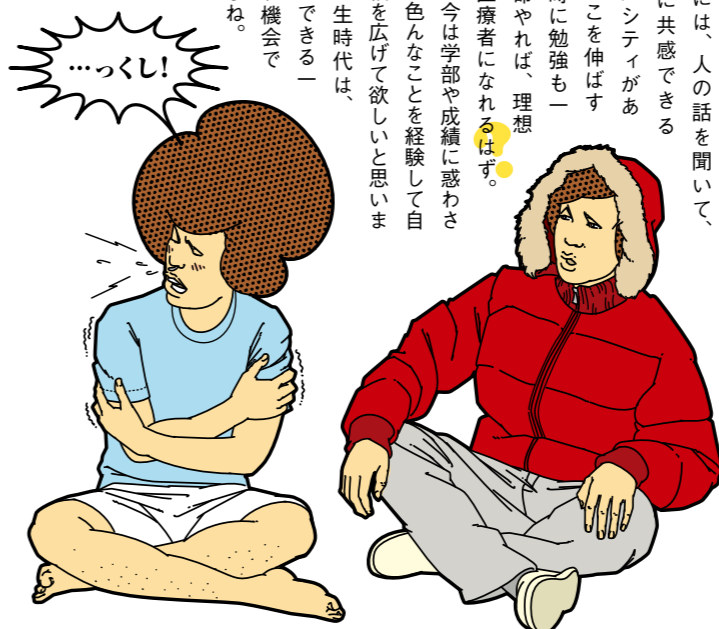
れています。インフルエンザは、最初にかかった人がどうするかが大事。普段は真面目な人も、決して無理をしないようにしてください。

ところで、先生の休日の過ごし方は？

Dr. ハイキングなど、自然の中で身体を動かすのが好きです。自宅が小岩なので、王子からの石神井川沿いの新緑や紅葉も楽しめます。すぐ側には湧き水を利用した公園があつて、東京にいながら森林の中で自然を感じることができるので、気に入っています。

学生たちへメッセージをお願いします。

Dr. 医者というのは患者さんに育てられるもの。医者として重要なのは、相手の痛みがわかって、ちゃんと話ができるかどうかなんです。帝京の学生には、人の話を聞いて、他人に共感できるキャパシティがある。そこを伸ばすと同時に勉強も一生懸命やれば、理想的な医療者になれるはず。だから今は学部や成績に惑わされず、色んなことを経験して自分の幅を広げて欲しいと思います。学生時代は、それができる一番いい機会ですからね。



西谷肇 准教授 Hajime Nishiya

帝京大学医学部内科学講座

1982年東京大学臨床系大学院卒業。帝京大学第二内科助手を経て、2003年6月より現職。日本感染症学会会員、日本化学療法学会会員、日本環境感染学会会員。

## ▶ Workshop

2007秋の公開講座に  
約200名の参加者

2007年10月、11月に3回にわたって開催された八王子キャンパスの秋の公開講座は、198名の参加者を数えた。内容は、法学部志方俊之教授による「大丈夫か、日本の危機管理」ほか、企業戦略の講義や模擬裁判など多岐にわたった。今後の公開講座の内容にも期待が高まる。

## ▶ Research

帝京大と新潟大、  
ヒトの言語機能研究に一石

帝京大学医学部工藤雅治教授と新潟大学の教授らによる研究グループは、ラットに合成言語音を学習させ、2つの合成母音を聞き分けさせることに成功した。言語音認識の動物モデルができたことで、今後の研究の進展に期待がもてうだ。



## ▶ Competition

全国大学ラグビーフットボール  
選手権大会出場決定

帝京大学ラグビー部が関東大学ラグビー対抗戦Aで4位に入賞し、「第44回全国大学ラグビーフットボール選手権大会」への出場を決めた。2007年のスロガン「ENJOY」(EN=作る、JOY=喜ぶ)を掲げ、誇りと栄冠を勝ち取るべく試合に臨む。

## ▶ Award

日本宗教学会賞、日本倫理学会  
和辻賞に沖永荘八教授

文学部長の沖永教授(筆名:沖永宜司)の著書「心の形而上学 ジェイムズ哲学とその可能性」(創文社、2007年2月刊)が、日本宗教学会の学術大会で2007年度日本宗教学会賞を、日本倫理学会の大会総会において平成19年度日本倫理学会和辻賞をそれぞれ受賞した。

# Notice Board.

大学からのお知らせです

## ▶ Event

理工系進学体験イベント、  
大盛況に終わる

9月に宇都宮キャンパスで開催された「理工系進学体験イベント」。企業が参加するロボットや模型展示のほか、実験教室や熱気球への搭乗など、数多くの体験型プログラムが人気の秘密。休日のキャンパスは、高校生や地元の親子連れなどでにぎわった。

## ▶ Workshop

空手部、チアリーディング部  
選手権大会で優秀な成績

11月から12月にかけて行われた空手部とチアリーディング部の選手権では、日頃の努力の成果によりたくさんの部員が数々の優秀な成績を収めた。結果は以下のとおり。

●空手道部「第18回関東学生空手道体重別選手権大会(平成19年11月3日於:慶應義塾大学日吉記念館)」男子65kg級ベスト8 高橋一應(経済学部経済学科4年) / 男子70kg級 優勝 茂木宏文(経済学部経済学科3年) 準優勝 滝川悟史(経済学部経営学科2年) / 男子75kg級 優勝 豊間根雷(経済学部経済学科1年) 第3位 徳永雄大(経済学部経済学科3年) / 男子80kg級 ベスト8 松村健(経済学部経済学科3年) 同 香川忠介(経済学部経済学科1年) / 男子80kg 超級 優勝 野口真史(経済学部経済学科3年) / 女子53kg級 準優勝 日高奈津美(文学部教育学科2年) ベスト8 岡本沙織(経済学部経営学科1年) / 女子60kg 超級 第3位 葛西美由紀(文学部教育学科1年)

●空手道部「第51回全日本大学空手道選手権大会(平成19年11月23日 於:大阪市中央体育館)」男子団体形 準優勝 / 女子団体形 優勝 / 男子団体組手 ベスト8 / 女子団体組手 準優勝

●チアリーディング部「第19回全日本学生チアリーディング選手権大会(平成19年12月1~2日 於:国立代々木競技場第一体育館)」Division1 第8位(参加127チーム中)

## ▶ Contest

帝京大学理工学部プログラミング  
コンテスト2007開催

10月26日、理工学部で「第1回帝京大学理工学部プログラミングコンテスト2007」が開催された。学外からもITの専門家3名を審査員に迎え、自由なテーマで作られた13作品が審査された。優秀賞は渋谷典明さん(情報科学科4年)。応募作品は高い評価を受けた。



## ▶ Project

帝京大生が立ち上げ  
「宇都宮まちづくりSNS」

理工学部情報科学科渡辺博芳准教授の研究室の学生4人が、井戸端会議感覚でまちづくりを考えようと「宇都宮まちづくりSNS」を立ち上げた。宇都宮の盛り上げに一役買いたいと意気込んでいる。  
<https://noah.ics.teikyo-u.ac.jp/miya/>  
※SNS…ソーシャル・ネットワークング・サービスの略

## ▶ Award

第28回ジャポニスム学会賞に  
岡部昌幸准教授

文学部史学科の岡部准教授が企画した「ジャポニスムのテーブルウェア—西洋の食卓を彩った“日本”—展、および同展図録掲載論文「ジャポニスムのテーブルウェア—19世紀末、欧米の食卓を彩った日本の美意識—」が第28回ジャポニスム学会賞を受賞した。

## ▶ Competition

FIPFAワールドカップ2007に  
帝京大生が出場

10月9~13日にBumB東京スポーツ文化館で行われた「第1回FIPFAワールドカップ2007」に、経済学部経営学科の中坪勇祐さんが、パワーチェアフットボール(電動車椅子サッカー)の日本代表として出場。7カ国が参加する中、4位と健闘した。今後の活躍にも期待したい。

## ▶ Staff Credit

Produce  
モーグリーン MO GREEN  
Planner  
須藤亮(MO GREEN) Ryo Sudo  
Illustrator  
Shu-Tang Grafix Shu-Tang Grafix  
Photographer  
平野太呂 Taro Hirano  
横江淳 Jun Yokoe  
ARIKO ARIKO  
TSUKAO TSUKAO  
Editor  
後藤健夫 Takeo Goto  
阪本歩 Ayumi Sakamoto  
赤堀雅子(MO GREEN) Masako Akahori  
仲野聡子(MO GREEN) Satoko Nakano  
Art Director  
井口創(MO GREEN) So Iguchi  
Designer  
岡村佳織(MO GREEN) Kaori Okamura  
Publisher  
帝京大学本部入試室 TEIKYO University  
広報グループ Public Relations Group

## Flair

発行月: 2008年1月(年4回発行)  
発行: 帝京大学本部入試室広報グループ  
〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1  
TEL 03-3964-3073 FAX 03-3964-3175  
E-mail: post@med.teikyo-u.ac.jp  
URL: <http://www.teikyo-u.ac.jp/theteikyo/>  
ご意見・ご要望をお待ちしております。  
郵送または FAX、E-mail にてお寄せください。  
©帝京大学 2008 禁・無断転載

## ▶ Contest

「第13回島田学長杯争奪英語  
弁論大会」に帝京大生が出場

11月に開催された「第13回島田学長杯争奪英語弁論大会」に文学部国際文化学科4年の松本峰さんが出場。全国から応募された書類と録音テープの一次審査を経て、8大学の代表者がスピーチを行った。出場大学以外にも多くの教員、学生が参加し、会場は賑やかな雰囲気に包まれた。

## ▶ Editor's Note

好きな言葉には、その人の人生観が表われます。どう生きたいのか、どうありたいのか。取材を通して、色々な方の“生き方”に触れることができました。

# See You Next Issue!!

08年4月10日 Vol.69 配布予定

## ▶ Association

帝京大学強化クラブ  
成績報告会

帝京大学の名を背負って躍進し続ける学生たちが、11月、八王子キャンパスで一堂に会した。第一グラウンドでデモンストレーションを行った後、学生ラウンジにてそれぞれの試合結果を報告。参加した部員は互いの栄誉を称えあい、更なる前進を誓いあった。

